

エコビレッジ、亀岡への誘い

～風韻土本を、なぜ亀岡へ～
(過去軸からの裏設定)

2015年12月15日 (火)

エコビレッジ、亀岡への誘い

～Invitation～

1. 亀岡幻想「神話の舞台」



【霧に沈む亀岡盆地】

この感覚こそ正に「亀岡」という地の持つ独特の雰囲気ではないだろうか？

それは、往古「記紀」に語られる神々が、未だ身近に息づき、実在している様な錯覚を起こさせる。

そうこの地は島根が“神話の故郷（ふるさと）”と称されるなら、現在進行形の“神話の舞台”と表現されても過言では無いと思われる。その舞台では、霧の訪れと共に、我々の心の中に「記紀」の神々が確かな形で蘇り、それぞれの人々の心象風景の中で、今も神話の物語を繰り広げ、我々もその舞台の一員として、各々の役を演じている。

2. 亀岡は「元出雲」！？

そこで演じられる演目は「葦原中国平定（あしはらのなかつくにへいてい）」、出演者は、天孫族側が、「天照大神をはじめとする八百万の神々」、一方、国津神側は、「スサノオの息子、あるいは、6世の孫といわれる大国主命（おおくにぬしのみこと）とその一族」となっている。

両者は、相譲らず、丁々発止の攻防となるが、天孫族側が「稜威雄走神（いつのおはばり）の子の建御雷神（たけみかづち）」を投入する事によって一挙に形勢が逆転、国津神側は敗れ、大国主命は、国譲りをし、幽冥界の主、幽事の主催者となり、去って行くと言うストーリーである。

この神話一見亀岡とは何の関係も無い「出雲（島根県）」での話の様に思われるであろう

が、とんでもない、亀岡は、「元出雲」と呼ばれ、丹波の一宮、式内社である「出雲大神宮」

【出雲大神宮】



も存在するのである。創建も不詳なくらい古（いにしえ）からある社であり、神代創建といわれる出雲大社（一説には紀元前といわれるが、明治期までは“杵築くつづき>大社”と称する）と比肩される神社である。

それに亀岡は、山陰地方の出雲よりは、大和朝廷の勢力圏と近く、出雲大神宮の由縁にある「国譲り」の神事により祀られたと解する方がより合理的である。

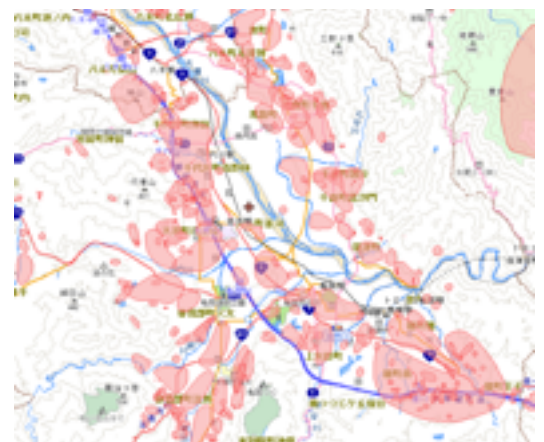
やはり、「葦原中国平定（あしはらのなかつくにへいてい）」は、亀岡＝元出雲が舞台である。

これを補強する証拠としては、亀岡市ひえ田野町佐伯に鎮座する式内社蕨田野神社の存在がクローズアップされる。社伝によれば和銅2年（709年）、丹波国守として派遣された大神朝臣狛麻呂が「五穀の守護神」として創祀したと伝えられ、社名の「蕨」は、五穀の首位であり、五穀の神である保食神に因んだとするが、当時太安万侶と古事記の編纂中であった「稗田阿禮（ひえだのあれ）」に因んで付けられたとする説もある。創祀の時期（古事記の完成は和銅5年・712年）と、場所（蕨田野神社からほんの少しの場所に「出雲大神宮」がある）を考慮すれば、蕨田野神社の社名は、後者の「稗田阿禮」に因んで付けられたと言う方が正しいと思われる。所謂「おらが故郷の神社」の由縁を広く世間に喧伝してくれた「恩人＝稗田阿禮」にお礼を込めて、「記念碑的社の建立を！」と言う方が・・・

3. パワースポット&鬼門ライン

右の地図をご覧ください。これは、京都府・市町村共同統合型地理情報システム（GIS）が「埋蔵文化財包蔵地（遺跡）」の状況を地図上にプロットしたものである。小さくて少し見難いと思うが、赤のいびつな曲線で囲まれたエリアが遺跡のある場所である。一目で分かるように、亀岡市は、京都府下でも、否、全国でも上位に入る埋蔵文化財の宝庫であると言える。

【亀岡／埋蔵文化財】



保津川の流域に沿って、様々な遺跡群が蝟集している様が見て取れる。（もっと詳しく確認されたい方は、<http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/kameoka/top/>にアクセスし、文化財の所をクリックして下さい）

こう言う遺跡という場所は、古代の人々が祭祀を執り行ったり、家を建てたり、生活をした場所であり、その地は当時の人々にとって「神聖な場」であり、「生活の場」であり、「憩いの場」であったのです。

これは、亀岡盆地のほぼ中央を流れる大堰川・保津川水系の豊かな水が育てたものだが、その他にも、古代の人々が、この地に引き寄せられた要因があったと思われる。



【保津川】

少し前ですが、有名な某スピリチュアルカウンセラーが、前段でご紹介した「出雲大神宮」を、「京都で一番のパワースポット」と紹介した事で一躍注目を集めたのはご存知の方も多いただろう。

そうなのだ。亀岡は、「出雲大神宮」だけでなく、地域全域に沢山のパワースポットが存在する地なのです。

その要因は何か？ヒントの一つ！「京都府レッドデータブック2015」 (<http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/index.html>) をご覧頂ければ理解して頂けると思う。



【桜石】

その中の「地形・地質・自然現象>地質>亀岡の桜石（堇青石仮像）～かめおかのさくらいし（きんしょうせきかぞう）～」が、その要因の一つの産物なのです。

（亀岡の桜石は、国の天然記念物として「稗田野の堇青石仮晶」1922年<大正11年3月8日>に指定されています。そして、1957年7月31日に名称変更されて現在の名称となっています。）

閑話休題。

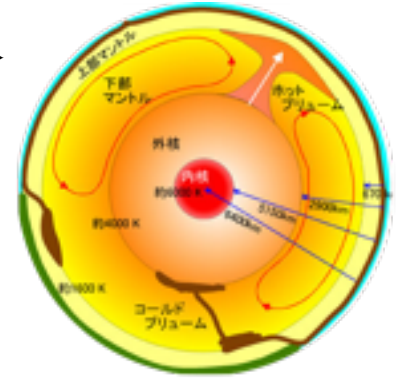
それでは、その要因とは何だろう？答えは、「灼熱のマグマ」です。それも、直径5kmもある大きな塊が、中生代に地中深くで上昇してきて、粘板岩に熱変成作用を与えて出来たのが、天然記念物「亀岡の桜石（堇青石仮像）」と言われている。これは、「行者山の南方ひえ田野町柿花から湯ノ花温泉にかけての約2km四方の各所」（「京都府レッドデータブック2015」より抜粋）で見られるらしい。

このような「マグマ」の活動（噴火であれ、地中での移動であれ）で出来たエリアには、共通する特徴がある。それは、「パワースポット」が多いという事です。

世界的に有名な米国の「セドナ」、「レッドロック・カントリー」と呼ばれている地域でも、様々な年代の、様々な地層の最上層部にあるのが、1千万年前の火山噴火の時の冷えたマグマの溶岩で形成された玄武岩層なのだ。

そして、この玄武岩等の火成岩が「磁鉄鉱と呼ばれる磁性を持った鉱石を多く含んでおり」これが、地磁気との何らかの相乗効果で、人間の精神や身体に影響を与えている等とも言われています。

と言う事は、「直径5kmもあるマグマ」が、例え地中深くであれ、上昇してきて影響を受けた地域及びその近隣は、十分にパワースポットであると言えます。



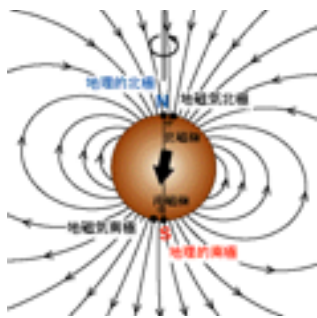
【地球内部】

さて、パワースポットの話が少し長くなりました。もう一つのテーマ「鬼門ライン」のお話もしなければなりませんね。

その前に亀岡と言えば思い出すのは戦国武将「明智光秀」が築城した「亀山城」、今は、宗教団体大本の二大聖地の一つ天恩郷「亀岡宣教センター」があります。奇しき因縁かも知れませんが、その崇めた神が「良の金神（国常立尊）」、即ち良＝鬼門＝北東の神、妻神豊雲尊は坤の方角にこもって「坤の金神」、即ち坤＝裏鬼門＝西南の神となります。

陰陽道では、鬼門即ち、北東の方角を鬼が出入りする方角として忌避し、その反対の方角南西も「裏鬼門」として忌み嫌いました。

ところが大本では、鬼門に封じられた神は「国常立尊」（日本神話における始源神）であると崇めたのです。



【地磁気】

ここに、「鬼門」及び「鬼門ライン」の重要性が隠されています。

「鬼門ライン」のお話に移る前に先ず「鬼門」に関して少しお話ししましょう。

左図をご覧ください。地球の「地理的北極」と「地磁気北極」の位置の違いがわかりますか？「地磁気北極」が少し東にずれている事が。

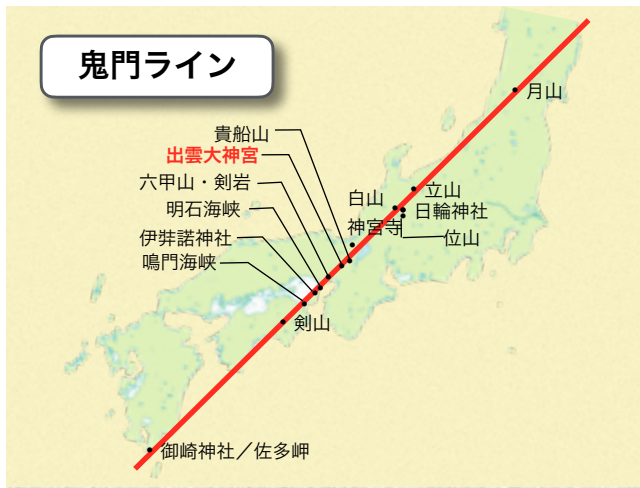
これプラス「（北極から見た）地球の自転方向」は、西から東に回転しているので反時計回りになります。

と言う事は、地理的北東から入ってくる磁力線が他のどの方位より強い事になります。即ち、パワースポットの話でも中心になった「磁気」＝パワーが一番強い方位＝鬼門になるのです。

それでは、本題の「鬼門ライン」のお話に入りましょう。「鬼門ライン」は、正確には鬼門方向に引ける「レイライン」の事になります。

この「レイライン」についてはご存知でない方の為に少しご説明したいと思います。

レイライン (Ley-Line : 光の線 : The Old Straight Track) は1921年イギリスの考古学者が太古の遺跡配置が直線に並ぶ様を発見し、著書『en:The Old Straight Track』により一気にメジャーになったもので、日本でも様々なレイラインが確認されています。



左図をご覧ください。前頁でお話しした「鬼門ライン」を日本地図に引いたものです。

本州最南端佐多岬／御崎神社から、四国の剣山を経て淡路島の伊弉諾神社、明石海峡を越えて六甲の剣岩、そして亀岡の地の出雲大神宮を経て、山形の月山に至る一本の北東に延びる長大なレイライン「鬼門ライン」が誕生する。

下に、この線が通過する神社の情報を一覧でま

とめて見たので、ご覧頂きたい。

社名	所在地	社格	創建年代	祭神
御崎神社	鹿児島県／佐多岬	郷社	和銅元年 (708年)	伊弉諾尊・伊弉冉尊 外御子命六神
伊弉諾神社	兵庫県／淡路市	式内社・淡路国一宮	神代	伊弉諾尊・伊弉冉尊
出雲大神宮	京都府／亀岡市	式内社・丹波国一宮	不詳	大国主命・三穗津姫尊
白山比咩神社	石川県／白山市	式内社・加賀国一宮	崇神天皇7年 (前91年)	菊理媛尊・伊弉諾尊・伊弉冉尊
日輪神社	岐阜県／高山市		不詳	天照皇大御神
月山神社	山形県／東田川郡	式内社	推古天皇元年 (593年)	月読命

この表を見て「鬼門ライン」に関していくつかの事が想起される。

- ・（日輪神社を除き）社格は、式内社である。または、各地域の一宮（最も社格の高い神社）である。
- ・（日輪神社を除き）祭神は、「伊弉諾尊・伊弉冉尊」が多く、大国主命、菊理媛尊、月読尊となるが、全ての祭神が「幽世、黄泉」等、死後の世界と関連する。

*日輪神社は、「鬼門ライン」にプロットされているが、その成立に関しては不明な点が多く、他の神社と比較して新しい神社であるかも知れません。

これにより、「鬼門ライン」とは、此岸に対する彼岸、現世に対する常世、顕世に対する幽世と言った二律する世界を画するゲート・キーパー、もしくは、死後の世界と捉えるのではなく民俗学者・折口信夫のいう理想郷、マレビト（民間信仰の蘇民将来等）の来訪によって幸運がもたらされる「異郷」への通行手形を手に入れる為の祈りの場、今で言うところのパワースポットであるのかも知れません。それも、国家が管理しようとした程の強力な…

4. 浮揚する亀岡～パラダイムシフト～

この稿を起こしながら、産みの苦しみに呻吟していた時、ふとネットニュースを見ると、こんな記事がヘッドラインに踊っていた。

「第21回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP21）は12日午後7時26分（日本時間13日午前3時26分）、途上国を含むすべての国が参加する2020年以降の新たな温暖化対策「パリ協定」を採択」

196カ国・地域が、史上初めて「地球温暖化」防止に一致協力して努める事を約したのだ。

これは、有史以来の快挙ではないか、と心の中で快哉を叫ぶ一方、人類という種の愚かさを再確認させられる思いであった。

なぜなら、ここまでの状態（北極圏の氷の消失による、海水面膨張によって南太平洋の島国の海没や、洪水、飢饉、異常気象等）にならなければ、この様な協定書一つも結べないのか！？

人類は過去に同じような過ち（全地球的ではないが、地域的環境破壊）を犯し、滅亡したとされる古代インダス文明*

1. の事を知っているでは無いか。

* 1. 一説には、滅亡の原因は、建築資材の煉瓦を焼く為の木材の乱伐が、環境破壊を引き起こし、大地を乾燥化させた事が主因といわれている。



【モヘンジョダロ】

ビスマルクの言葉「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」を借りれば、人類の中には、「賢者は存在せず」、「愚者のみ存在する」事になる。

と、このような事を考えながら、人類は今、大きな“時代の転換点”に立っているのではないかと考えるに至った。イヤ言い直そう、西洋文明を主流とした物質主義の時代から、大きく振り子は振れて、東洋文明の精神主義の時代へ、確かに時代は動いていると確信する。

特に日本は、明治維新以降、「脱亜入欧」をテーマに「西洋文明に追いつけ追い越せ」で、様々な社会や、政治・経済の機構制度を改革してきた。

特に第二次大戦後は、アメリカに次ぐ世界第2位の経済大国へと駆け上がり、そして発展してきた。が、2010年に中国にその座を奪われた。

経済面以外でも、新興中国に次々と様々な場で、そのプレゼンスを奪われている。

ここで我々日本人は意気阻喪している。

「そんな事はない」と仰る方は多いであろう。

曰く「本年も日本は、ノーベル賞受賞者を2名も出している。」

曰く「錦織は、テニス。羽生、浅田は、男女スケートで、五郎丸は、ラグビーで・・・」

etc. etc.

しかしながら、何れも個人の属人的才能によるモノで、日本国全体が、その榮譽を受けている訳ではない。（GDPは、国家全体の経済状態の指標）

その状況を端的に表しているのがテレビの番組。

- ・世界が驚いたニッポン！ スゴ～イデスネ!!視察団 | テレビ朝日
- ・日本語探Qバラエティ クイズ！それマジ!?ニッポン | フジテレビ
- ・Youは何しに日本へ？ | テレビ東京
- ・ネプ&イモトの世界番付 | 日本テレビ

全て、日本人としての自尊心をくすぐる番組で、尚且つ視聴率が取れるプライムタイムにオンエアしている人気番組です。意気阻喪している日本&日本人を励ます、あるいは、自画自賛する番組なのです。

この辺の事情は、NHKで2/18放送「首都圏ネットワーク」の特集「ほめられたいニッポン」という情報番組で紹介していただきましたので見た方もいらっしゃると思います。

しかし、私は、日本&日本人は、かほどその様に、深刻に、意気阻喪する必要はないと考える。

なぜなら、「西洋文明から、東洋文明へ。物質主義から、精神主義へ。」

時代がそのシフトを変えるなら、まさに、それは日本の出番ではないだろうか？それも、神代に「国譲り」が行われた「出雲＝亀岡」を舞台の端緒として。

なぜなら、前半でも述べたように、原初の日の本において既に、出雲が、大和に「国譲り」する時、統治の役割分担（「幽界（精神界）支配は大国主命に、顕界（物質界）支配は、天照大神」）をする事により、穏やかな政権交代が行われているからである。

今、時が巡り、ローマの歴史家クルチュウス＝ルーフスの「歴史は繰り返す」という言葉通り、世界に大きな転換点が訪れているとするならば、「日本→元出雲→亀岡」が浮揚（クローズアップ）されるのは当然の流れではないだろうか。

もちろん、今回は、「国譲（ゆず）り」の場ではなく、濁りのない「国揺（ゆ）すり」の場として、亀岡から、新しいムーブメントを発信し、

（日本）国を揺すり、その動きで、世界を揺する発信拠点として、新しい神話の舞台として。

国内外の物質文明に病み、疲れた人々の精神の癒やしの場（パワースポット）として！

「雲太、和二、京三（うんた、わに、きょうさん）」



このへんな呪文みたいな言葉はなんだろうか？実はこれ、「口遊（くちすさび）*1.」に出てくる言葉で、その当時の大きな建物を、大きい順に、所在地を姓として、出雲太郎、大和二郎、京三郎と、覚えやすいように並べたものです。

勿論、出雲太郎は、「出雲大社」、大和次郎は、大和（奈良）の東大寺大仏殿、京三は、京都の大極殿になります。

上の写真は、『金輪御造営差図』に基づいて古代出雲大社の復元シミュレーションを工学博士・福山敏男氏と建設会社・大林組プロジェクトチームが、復元した高さ16丈もの高層神殿の想像図です。

* 1. 平安時代中期に編纂された児童向けの学習教養書。